

中央研究棟の完成（平成5年12月）

- 昭和63年 愛知県農業総合試験場研究体制調査会議を設置
- 平成2年 中央研究棟実施設計
- 平成4年秋 工事着工
- **平成5年12月 完成**
- 平成6年11月 中央研究棟完成・農業試験研究100年記念式典



建設中の中央研究棟と旧本館（手前）



完成した中央研究棟

組織再編(平成6年)

■ 背景

- 組織培養、細胞融合、卵移植等のバイオテクノロジーを積極的に取り入れる研究の高度化が必要
- 花き生産全国1位の愛知県には、全国に先駆けた研究の拡充・強化が必要

■ 再編の内容

【変更点】

- 生物資源部を廃止し、生物工学部を設置
- 花き研究所を新たに設置
- 経営流通部と生産環境部を再編し、経営環境部を設置

【平成6年】

- 管理、企画情報、普及指導、生物工学、経営環境 = 5部
- 作物、園芸、花き、畜産、養鶏、山間農業 = 6研究所
- 弥富、安城、豊橋 = 3農業技術センター

平成6～14年

■ 世の中の動き

- 平成7年 阪神・淡路大震災
- 平成10年 長野オリンピック
- 食品偽装、無登録農薬問題



阪神・淡路大震災



長野オリンピック

■ 農総試の動き

- 平成7年から5年間、ガット・ウルグアイ・ラウンド対策事業により、低コスト、超省力、大規模化を追求した研究を実施
- 共同研究推進室を設置し、産学官共同研究を推進



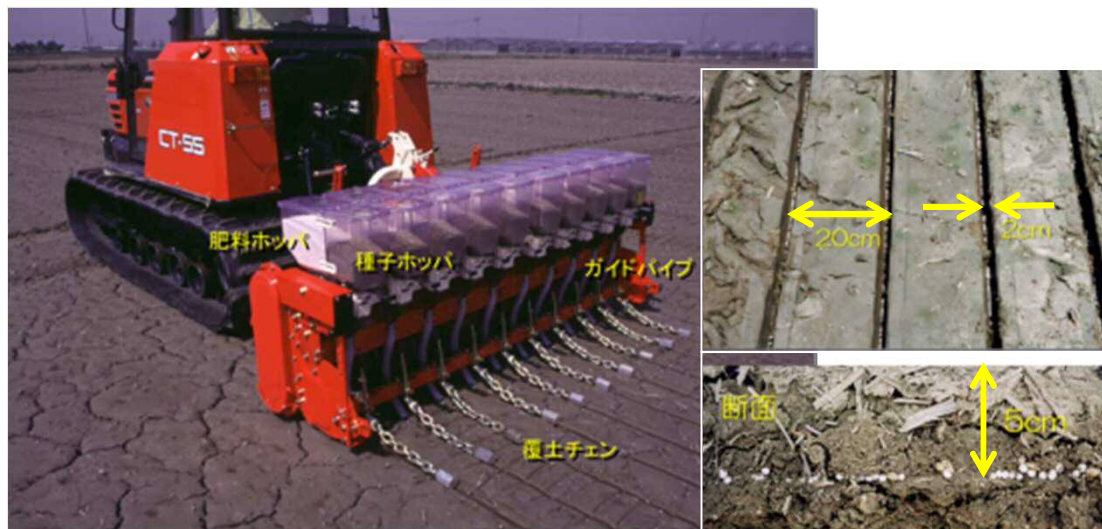
キャベツの機械化一貫体系確立試験



大区画ほ場における超省力
2毛作栽培技術開発試験

■ 主な研究成果

■ 楽々米づくり「水稲不耕起V溝直播」



- ほ場を固め、V字型の溝に種子と肥料を同時に播き、出芽した後に入水するだけの超省力稲作技術
- 従来の機械移植栽培に比べ、労働時間が3割、必要経費が1割削減

■ シクラメンの底面給水栽培



■ 体細胞クローン牛の生産

